

第2学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

知 識 及 び 技 能		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。 イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。 ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から、450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。 カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。
		(2) 情報の扱い方に関する事項 ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。 イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。
		(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。 イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。 ウ 書写に関する事項 (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 (イ) 目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くこと。 エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。
思 考 力 、	A 話 す こ と ・	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。 ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

判 断 力 、 表 現 力 等	聞くこと	エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。
	B 書くこと	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。 イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。 ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。 オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
	C 読むこと	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。 イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。 エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果などについて考えること。 オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

＜知識及び技能＞

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 命令や呼び掛け、敬語といった相手の行動を促す表現など、日頃使用している言葉を見つめ直すことが、言語能力の向上につながる。
- 相手(聞き手)の反応やその場の状況などの影響を強く受けながら、理解されたり表現されたりする話し言葉と、書き手が十分に考え推敲を重ねて文章を作成したり、読み手が必要などきに読み返したりできる書き言葉とを適切に使えるようにさせる。
- 漢字の読みは、習得した常用漢字に加え、さらに350字から450字程度まで読めるようにし、漢字の書きは、第1学年で学習した900字程度の漢字を含め、学年別配当表に示している1,026字の漢字を使えるようにさせる。
- 語感を磨き語彙を豊かにするためには、類義語、対義語、同音異義語、多義語などの語句を話や文章の中で使うことを通して、語句の量を増すとともに、語句の理解を深めさせる。
- 単語の活用、付属語の働き、文の成分の順序や照応などを理解し、相手や目的に応じて話や文章の構成や展開を考えさせる。
- 敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解させる。

② 情報の扱い方に関する事項

- 意見と根拠の関係や、判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解させるために、具体と抽象の概念との関連を図る。
- 情報や図や絵、記号などで整理したり、情報と情報との様々な関係を図式化したりして、複雑な関係を把握したり自分の思考を明確にしたりさせる。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 作品がもつ特徴的なリズムや表現などを生かして朗読することを通して、生徒と古典の

世界との距離を縮め、古典の世界に親しませる。

- 古典の現代語訳や語注、解説などを手掛かりとして、情景や心情を想像できるようにし、登場人物の言動や作者の思いを考えることから、作品を貫くものの見方や考え方を理解させる。
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解させ、目的や必要に応じて楷書または行書を選ぶようにさせる。
- 読書を通じて、本や文章などが様々な立場や考えから書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすようにさせる。

＜思考力、判断力、表現力等＞

① A 話すこと・聞くこと

- 社会生活の中の出来事や事象に関心をもち、自分とは異なる立場や考えの聞き手に自分の考えを伝えるために、根拠となる情報を幅広く収集させる。
- 自分の立場や考えを明確にするために、話の全体を俯瞰して、聞き手を意識した論理の展開を工夫する。
- 話の要点や中心となる根拠を明らかにしたり、説明を補足したりして、聞き手に分かりやすく伝えるために、資料や機器を用いるなどの工夫をする。
- 論理の展開などに注意して、話し手の考えと自分の考えとを比較しながら聞かせ、自分の考えをまとめさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などを行った活動。

イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして議論や討論をする活動。

② B 書くこと

- 社会生活全般から集めた材料を、目的や意図に応じた観点を設け、比較・分類・関係付けなどをしながら考えを整理し、伝えたいことを明確にさせる。
- 文章の構成や展開を工夫したり、段落相互の関係などを明確にしたりして、伝えたいことを分かりやすくさせる。
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりして、自分の考えが伝わる文章になるように工夫させる。
- 説明や具体例、描写などに着目して、これらの表現の効果などについて確かめ、読み手の立場に立って文章を整えるようにさせる。
- 表現の工夫とその効果などの観点や、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いださせる。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

ウ 歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。

③ C 読むこと

- 各段落や場面が文章全体の中で果たす役割について捉える。説明的な文章においては、具体例と書き手の主張との関係を把握し、文学的な文章においては、登場人物の設定の仕方を捉えさせる。
- 説明的な文章においては、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、文学的な文章においては、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈させる。

- 同じ形式で書かれた一続きの文章，異なる形式で書かれた文章，図表を伴う文章において，内容を解釈させるために，書き手の伝えたい内容を正確に読み取らせ，その結果どのような効果が生まれているかを考えさせる。
- 観点を明確にして複数の文章を比較しながら読むことで，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えさせる。
- 他者の考えやその根拠，考えの筋道などを知り，共感したり疑問をもったり，自分の考えを対比したりすることにより，自分の考えを広げたり深めたりする。
- 「読むこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 報告や解説などの文章を読み，理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み，引用して解説したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 本や新聞，インターネットなどから集めた情報を活用し，出典を明らかにしながら，考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

3 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに，読書生活に役立て，言葉を適切に使おうとしている。